■被葬者を飾るアクセサリー■

一須賀古墳群で出土しているアクセサリーには、イヤリング、金製耳飾り、釵子、ガラス小玉、水晶製切子玉、土玉などがあります。

その一方で、弥生時代以来の伝統的な副葬品である、ヒスイ製の勾玉や碧玉（へきぎょく）製の管玉といった石で作られたアクセサリーは、これまでの調査でほとんど出土していません。

このことには、古墳時代後期の近畿地方において、石製玉類の流通が減少し、金属・ガラス製装身具の流通が増加することや、渡来人や渡来人と深いかかわりを持つ人びとが金属・ガラス製のアクセサリーを持つ場合が多いことなどの事情が、影響していると考えられます。

一須賀古墳群で出土しているアクセサリーを見ると、耳環や玉類といった国産品のほかに、梔子形の飾りをもつ耳飾り、釵子、銀製指輪など、朝鮮半島から直接持ち込まれた可能性のあるものがあります。

同様に、蔀屋北遺跡、藤の森古墳、高井田山古墳でも舶来品とみられるガラス製玉類が出土しています。

国産品と舶来品が入り乱れるアクセサリーは、製作から流通、入手、そして副葬への流れが多様であったことがうかがえます。